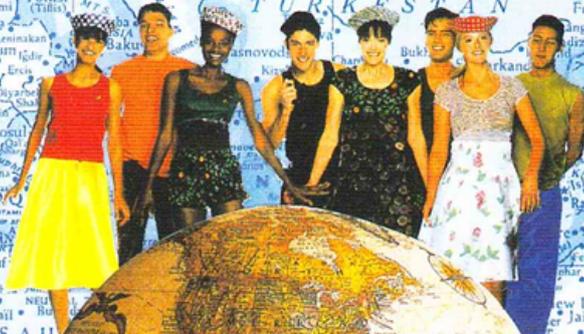


学友会 (関西)



1997

Dedicated To International Peace and
International Understanding



YO NE YA MA

13



米山奨学金の教え

ロータリー米山学友会関西地区会長

清 河 雅 孝

京都産業大学教授・法学部長

ロータリー米山奨学生学友会は、創立11周年を迎えた。この米山記念奨学金に生まれ専門的知識を身に付けて社会へ巣立った人々が、今や中堅ないしはリーダーとして世界各国で活躍している。米山奨学会は、留学生個人を援助するだけでなく、それを通じて世界全体を援助し国際交流を促進していると言っても過言ではなかろう。だが、本奨学会に生まれた者は謙虚に己を見つめる眼も持たなければならない。人間としての尊厳を自ら放棄し意地もプライドもかなぐり捨ててイモータルに走る御時世だからである。意欲を持つことは大切だが、自分を育ててくれた社会への感謝の心を忘れて利欲に走ると天地に背く者となる。

小生がこの奨学金で得た事は、単に法律学の専門知識のみではない。私が学び取った最も重要なことは、自分がこの奨学金に育ててもらった、ということである。人は自分だけで生きているのではなく、他人様によって生かされてもいるのだ、とはしばしば言われるし、私もそう思う。

だが、この事を身を持って感じるひとは意外と少ない。格言がそれを会得して初めて金言となる。苦学生だった私は、幸いにもこの格言を会得することができた。格言を金に変える錬金術こそ私がこの奨学金から得た生涯の至宝である。振り返ってみると、私達の年

代が大学院で研究の礎を築きつつあった時代は、博士浪人が多発する困難を極める状況であった。高度成長下、世は繁栄を謳歌し、若者は学園闘争を経て再び学舎に戻り、落ち着きを取戻しつつあった。若者たちは、楽しく語らい、屈託なく笑い、樹樹の小鳥までもが美しい音色を奏でるのだった。そんな繁栄の谷間に暗く闇に閉ざされ、かすかに射し込む日の光を仰ぎ追い求める若者が大学院の学生達だった。開けぬ展望に頭を垂れながらも彼等は次代の学問を担おうと自らを振り立たせて研究に励んだ。

人間、一度は地を這うべきものである。地を這えばこそ大地の温もりが体に伝わって来る。小さな草木の芽が太陽の恵みを受けて伸び行く姿を見、お日様の有り難さを実感するのである。

私たちは、自分だけで生きているのではない。互いに支え合い、助け合い、世の中に生かされてこそ生きているのである。人間だけではない。小鳥や犬や虫けらでさえ私達の仲間である。自然は生きとし生けるものの揺籃である。人々に感謝し天地の恵みに感謝し濁世による心の汚れを少しでも洗い落として社会に貢献したいと思う。この奨学金で学ぶ後輩諸賢がこの智恵を学び取ってくれんことを願うものである。



学友会（関西）会報によせて

国際ロータリー第2650地区 米山奨学委員会委員長

吉 田 精 一

ロータリー米山奨学生学友会会報の発刊にあたり、先ず会員の皆様のお元気でご活躍の様子を聞き、お慶び申し上げます。

私は今年度第2650地区の米山奨学委員会の

委員長として皆様にご挨拶の出来ることを大変喜んで居ります。此の委員会には以前から学生のカウンセラー、地区委員としてお会いしておりますが、5年前私のクラブ（長浜）

が台北のクラブと友好提携をしたとき、台湾で活躍されている学友の諸君にお会いする機会がありました。その時の感激を忘れることは出来ません。学友の中で大学の後輩がおられますので、私の行くことを前もって連絡しておきました。当日空港まで迎えてくださりホテルで提携の式典まで時間がありましたので、思い出話をしておりました。「是は私が造りました目覚まし時計です。持って帰って下さい」と二個戴きました。女子の学友で台湾に帰って25名の従業員の会社を経営している、その製品だと聞きました。今でも使って



「よねやまだより」25号-1996年秋号に次のような記事があったのを覚えている方もおありでしょう。

ソムチャード、ラタナチャタ氏

東京ロータリークラブが設立した「米山基金」による来日第1号奨学生

略歴：カセサート農業大学卒業・東京大学農学部修士課程修了、研究科目は養蚕学および果実栽培と保存。帰国後、母国の蚕系局に入り、タイシルク増産の向上に努めた。奨学期間は1954年9月から1958年10月。1990年逝去、67歳とあり、家族の現況も詳しく記されていました。そして、同氏と家族の消息に関しては、タイの名誉領事である中牟田善一郎氏(第2700地区PG・福岡RC)のご尽力によって判明したことが付記されています。

私はこの記事を読んで、米山奨学生第1号の同氏の消息が判って本当に良かったと思いました。

しかし、一般の学友達の中には、現在どうしているか、なかなか情報がつかめない人があると思われま

す。奨学期間を終えて母国に帰るか、或いは日本に留まるかで事情は大きく異なってきます。特に前者の場合は国際情勢如何によって左右されることが考えられます。その国の政治経済事情とか、日本との外交関係如何によ

いますが、「日本に居たときお世話になった事は一生忘れません」と聞いたとき、ロータリーの感激を痛感しました。また会社を休んで案内してくれた生徒も居ました。

提携しているクラブには東京で奨学生として留學生活を送られた人もいて、私たちが行きますと通訳をして喜んで頂いております。

奨学期間だけのお付き合いではなく、何時までも皆さんとの出会いを思い出し、お付き合いを続けて行きたく願っております。

昨年10周年を迎えられた関西の学友会の一層のご発展をお祈り致します。

米山奨学生学友の消息について

国際ロータリー第2680地区 米山奨学委員会委員長

市 居 嘉 雄

っても事情が変わってくるでしょう。母国に学友会が結成されていれば、消息の把握は比較的容易かもしれません。日本に留まるならば、就職したところや居住した土地の学友会に入っ

ただ、この問題に関しては、学友一人ひとりの気持ちだけでなく、やはり世話クラブとカウンセラーの熱意や努力も大きな要素になることは確かなことです。

第2680地区では1995～96年度に米山奨学委員会に学友担当1名をおき、'96～'97年度はそれが2名となりました。田中ガバナーの方針により、過去にさかのぼって現在までの学友達の消息把握を各世話クラブ毎に鋭意進めているところ

そこで現役の奨学生の皆さんにお願いがあります。折角選ばれて米山奨学生となった皆さんですから、奨学期間が終わってからも世話クラブやカウンセラーとの連絡をいつまでも続けてほしいのです。年賀状やクリスマスカードの交換、住所の変更通知など、折りにふれて連絡をして下さいませんか。世話クラブやカウンセラーの方々も何とぞご協力のほどをお願い致します。



会員消息

ロータリー米山学友会（関西）前会長

許 紫 芬（山岡由佳）

米山学友会会員の皆様、四年間会長の役を果たす事ができました事を感謝申し上げます。袖振り会うも多少の縁と申しますが、四年の月日は私に取りまして人生の旅路の中で、おそらく一番多くの事を学ばせて頂いた時と思います。大役を終えた今、又新しい人生の出発が私を待っております。

この度、台湾の暨南国際大学歴史学研究所より招聘を受けまして、去年の八月に赴任いたしました。皆様に対する御恩返しはまだ十分にしない内に去る事は大変申し訳ございません。台湾に帰りまして新しい環境になれるのも大変だと思いますが日本が懐かしい時にはときどき皆様の集いに参加させていただきます。ほんとうに長い間色々ありがとうございました。

暨南国際大学は台湾南投県埔里に位置し、

丁度台湾の地理の中心に当たります。周囲は数重の山麓に囲まれ、良き水質（Water）・好天候（Weather）・紹興酒（Wine）が有名です。キャンパスは150ヘクタールも有ります。壮大な視野、多彩な雲霧の変化に自然のすばらしさを身近に感じ取れます。都市に生まれ育った私には感激の毎日です。皆様機会がございましたら、お遊びにいらして下さい。心から歓迎いたします。

最後に皆様の御健康をお祈り申し上げますと共にご挨拶とさせていただきます。

連絡先：許紫芬（山岡由佳）

〒545 中華民国台湾省南投県埔里鎮大学路1号
国立暨南国際大学 歴史学研究所

Tel : 049-910872 (0)

Fax : 049-912551 (0)

Tel / Fax : 049-914072 (H)



学友会は何を成すべきか

ロータリー米山学友会（関西） 幹事長

梁 官 洙

大阪経済法科大学研究員・講師

1. これからは国際親善と交流の促進

学友会が設立されてから今年12年目に入る。この会の目的は「元及び現米山奨学生間の交流を通じて親睦及び互助を促進するとともに、国際親善及び世界の平和に寄与する。また、米山奨学事業の発展に寄与する」となっている。昨年から関西学友会の幹事長を勤めるようになったので、創立から昨年まで学友会の具体的活動についてはそれほど詳しく知らないが、大体私の知る限りで言うならば、元・現米山奨学生の間とロータリーアンとの間の交流と親睦を図る上で、学友会が一定の寄与を果たしてきたと思う。ところで、米山奨学事業の発展のために寄与するにはまだ、学友会員（日本在住）の力量が足りな

いのではないかと思う。しかし、世界の平和に寄与するという大きなテーマに取り組むことは一応、これからじっくり考えていくとしても、取りあえず学友会ができることは国際理解と親善を深める活動ではないだろうか。いままで多くのロータリーアンの方々から、学友会への希望と助言を頂いているが、多くの方がもっとも望んでいることは日本と諸国との国際理解と親善を深める上で、学友会員らに橋渡しの役割をしてもらいたいことだろう。ロータリークラブは世界的組織だが、周知のように米山梅吉さんは日本ロータリークラブの創始者となって、その高邁な遺志を引き継ぐ趣旨で作られたのが米山奨学会である。米山さんは生前特に、近代化が遅れてい

たアジアからの留学生らを密かに支援したと伝えられている。なぜ、米山さんはアジアの若者達に暖かい心を送っていただろうか？彼の奥深いところまではよく分からないが、日本文化と歴史の源流であるアジアについて熱い思いをもっていたに違いない、と私は思う。

2. アジアの中での日本の位置

米山さん時代に比べて今のアジアはまったく変わっているといえる。今や東アジアは世界経済の「成長センター」としていわれており、その経済的比重の高まりとともにこれからは「アジアの時代」が来るという見方も高まっている。西洋の帝国主義的侵略と植民地支配に長い間苦しめられた苦い経験を持っている日本以外のアジア諸国は「アジア時代の到来」を感慨深く受け止めているに違いない。しかし、この新しい時代への転換期において、アジアのなかでただ一国、日本だけがその進路に不安を抱いて、迷っているように見えるのはなぜだろうか。その原因は近代以降、日本のアジアにたいする侵略と傲慢さにあると思われる。近代資本主義がイギリスの産業革命から始まって、そのインダストリアルリズムの波がヨーロッパ、アメリカ、アジアへ次々と波及していくなかで、日本はペリー黒船の外圧を受けて、明治維新を起こし、日本流の近代化を推し進めると同時に、アジアへの侵略をも進行させた。

1894年、韓半島を戦場とした日清戦争で日本はアジアの大国、清国を破り、1905年日露戦争でヨーロッパの大国、ロシアを破ってから、日本人の鼻は天狗となり、益々アジア人を見下し初めた。朝鮮、中国を次々と侵略し、ついには「西洋の侵略と支配からアジアを解放させるのは日本帝国の使命である」という虚偽の論理を盾にアジア全域への侵略を敢行した末に敗戦した。前後日本は、アジアへの侵略事実を認めず、反省もせず、アメリカの冷戦戦略の傘の下で、また急速に復興して高度経済成長を成し遂げた。日本が高度成長していく裏腹で、アジア諸国は冷戦対立に引き込まれ、戦争を強いられ、膨大な人的・物的・精神的犠牲を強要された。アジアの隣国が戦火の最中のある時、日本は「戦争特需」によってぼろ儲けした。即ち、日本は冷戦対立の中で唯一の受益者である。戦前はもちろん、

戦後にも日本はアジアに数え切れないほど借りがある。この事実を認識している日本人はどの位いるのだろうか。戦後民主主義の進展と共に、日本がアジアへの侵略事実を認めて、反省・謝罪・補償・教育するように粘り強く戦ってきた大勢の日本人が育っているが、まだ、主流になっていないし、日本国家を代表して歴史清算を行ったことはもちろんない。1995年戦後50周年を迎えて行われた日本の「国会決議文」の中でも侵略の主体が曖昧に表現されている。アジア諸国の国民はもちろん、西洋諸国も戦前日本のアジアへの侵略を明らかな史実として認識しているのに比べて、ただ一国日本国民の主流はこの動かせない事実を認めようとせず、返って隠蔽を図ってきた。これがアジアの中で日本が信頼されえない根源であり、孤立されうる最大の原因でもある。新年を迎えて新聞やテレビでは、日本はアジアとどう付き合うか、アジア重視の政策をどう立てて実行するか、今まで日本とアジアとの関係において日本が反省すべきことは何か、というテーマが主流をなしていることが目立つ。明治初期の「脱亜入欧」から戦後は「入米」を通じて発展してきた日本は「アジア時代」の門前で「入亜」を試されているからである。NHK放送の新年番組、日本の座標軸“岩倉使節団”にみる現代の選択「アジアへの視点」（1月3日放映）に出た加藤周一さんは、日本がアジアで信頼されない理由として「何よりも戦前日本がアジアを侵略した事実を認めない、心から反省していないことが一番の理由であり、二番目は明治維新以降日本人は外国人にたいして上に見るか下に見るしかしなかった。特に、アジア人に対しては見下す傾向があったし、今もそれほど変わってない。アジア人を対等に見て付き合うことから始めないと日本はアジアで友人を作れないだろう」、と率直に助言していることを聞いて私もそう感じた。

3. 学友会の役割

アジアと日本の関係がこのように不信状態のままで良いのか。良識を持っている者ならこのままではお互いに不幸になると思っているに違いない。それでは、学友会が当面やるべき国際交流の中身は何か。ただ集まってうわべだけの笑いを飛ばして終わるような交流

はそれほど急でもないし、多くの方に要求される事業でもないと思う。世紀的転換期において、日本で学び、日本をよく理解しているはずの学友会員らが先頭に立ってやるべきことは、日本がアジアの友人になれるよう、アジアの人々がより深く日本を理解できるよう、橋渡しの使命を果たすことではないでしょうか。これを実行するために学友会がとりあえずやるべき課題を次のように提言したい。

- (1) 自国に帰国した元米山奨学生らの消息を調べ、整理する。
- (2) 現在、把握されている日本在住以外の学友会員との関係を緊密にする。
- (3) 国際交流のプログラムを企画し、実行するためのネットワークを造る。
- (4) 今後1-2年以内に学友会員とロータリーアンを中心とする「米山国際シン



米山奨学生として、初めてこのような奨学生とロータリーアンの懇親会に参加させて戴いた。米山奨学会には大変お世話になった。昭和42年に大阪ロータリークラブから、そして、昭和45年には大阪北ロータリークラブから推薦を受け、奨学生としてお世話になった。我々私費留学生にとって、この奨学金は、生活の足しとなり、勉学するための情緒安定に大きく寄与した。大阪ロータリークラブで戴いたその奨学金で、毎日自動車学校へ赴き、運転免許取得までの授業料として、間に合う金額であると記憶に残っていた。二回の奨学生生活を経た後、学業が終了し、実社会で働くようになると、米山奨学会とは疎遠になり、仕事に追われる毎日であった。

この度、京都での学友会の懇親会も、清河雅孝会長の誘いがあったこそ、時間を裂いて参加することができた。清河会長とは、同時期に留学で来日した、同期の桜である。その後の進路は多少違うけれども、共に留学生同学会で幹事役を努め、団体のことを常に意識し、また生まれ故郷の台湾の前途について、

ポジウム」(仮称)を開催するための「実行委員会」を造る。

もちろん、規模の大小を問わず、国際会議を準備することは色々と難しい問題を抱えていると承知している。学友会の幹部らも皆自分の生活と研究のため忙しいし、このような企画をロータリークラブ、或いは米山奨学会にまったく依存できない。しかし、学友会の活動方針としてこのような国際交流事業を決めれば、多少時間が掛かっても動き出せると思う。いまや情報通信がとって進んでいるので、インターネット、E-mailを活用して日本内外との話し合いを効率よく進めて行ける。

新年初頭、こういうことを考えてみたが、私の提言について皆様の建設的意見を求める次第である。

米山奨学生学友会「秋の懇親会」に参加して

元大阪北ロータリークラブ奨学生

中山 勝 富

(株) 中山商事

同じ憂いをもっていた。

学業を終了し、離れ離れになった米山奨学生達を、誘い合わせて懇親会を開催することは、非常に意義深いものであると感動している。

以下、簡単に当日の観覧した、国宝級でしかも初めて公開した文化財を列記して見ることにする。

11月3日秋晴れに恵まれ、予定を20分遅れてJR京都駅八条口を出発した定期観光バスは、一行44人を乗せていた。ふだん非公開の秀吉ゆかりの史跡を中心とした「秀吉京洛展」などの文化財を拝観する特別コースである。

10時45分頃、最初に到着したのは西本願寺で、特別公開の国宝飛雲閣を拝観した。飛雲閣は境内東南、滴翠園の庭園にある外観上三階の気の利いた傑作建築である。南側には重要な門が三棟あるが、その最も東にある唐門は、曲線の集合からなる唐破風を前後にもつ四脚門であるが、まことに巧みな彫刻や金具を一杯飾った華麗な門である。飛雲閣正面舟入の間は唐破風、招賢殿は入母屋とし、二階はずっと小さく、三階はさらに思い切って小

さく、しかも中心線は上ほど左に移して左右対称を避けながらも全体の均衡を取っている姿は非凡なものと言えよう。

11時40分に圓徳院に到着した。特別公開である。この圓徳院は豊臣秀吉の妻、北政所ねねの甥が建て、秀吉の没後、北政所ねねがここで余生を送り、没した所である。ここでの見所は池泉回遊式の北庭である。桃山時代の代表的庭園の一つと言われ、多数の巨岩大岩がふんだんに置かれ、桃山時代の豪華さ、豪胆さを表現している。また、戦国武将の遺墨や書翰が多数所蔵していた。

12時半、一行は京料理の老舗木藤に到着した。千年の歴史に磨き抜かれた京料理を賞味しながら、懇談の一時を過ごした。当日は国際ロータリー第2650地区から米山奨学委員会委員長の吉田精一先生と京都嵯峨野ロータリークラブの上田陽先生が出席して戴き、色々ご鞭撻のお言葉を頂戴した。

14時に平安神宮特別展会場で「秀吉の栄華と京洛歳時記展」を観覧した。織田信長に見初められた秀吉は、出世街道を駆け巡り、天下人にのぼりつめ、伏見城で62歳の生涯を閉

じるまで、京都と深い関わりをもっていた。壮麗な聚楽第、伏見城や大仏殿の造営を始め、黄金の茶室や北野大茶湯に見せる茶の文化、聚楽第での演能など、この京都で桃山文化を演出し、花開かせたのである。そしてその秀吉の栄華の足跡を歳時記風に展覧しているのである。

15時20分より光福寺を拝観した。特別公開である。秀吉の木像をはじめ、秀吉関係の寺宝を数多く有すると共に、六齋念仏発祥の寺として有名とのことである。

今回の特別展は、丁度NHK大河ドラマ「秀吉」の放映中であり、秀吉の栄華の足跡が、より一層鮮烈に印象に残すことができた。非常に意義深い懇親会であった。

16時30分予定通り、JR京都駅八条口へ戻り、清河会長の締めくくりの挨拶と梁官洙幹事長の報告を終えて解散した。天候に恵まれ、特別公開の国宝級文化財をこの目で確認できたことは、すごく幸せであった。来年も、またこのような、充実した企画で米山奨学生の懇親会がもたれることを念願している。

'96年度のテーマ『わたしの日本語の勉強法』



NHKの放送を通して日本語習得

元京都伏見ロータリークラブ奨学生

リー ビョン ナム
李 炳 男

同志社大学博士課程

私が日本語を習い始めたのは、高校一年生の時からです。しかし、当時の私としては、日本語に対する特別な意味があったわけではなく、他の外国語よりは易しいように思えたから、日本語を第二外国語として選択したのがその主な理由でありました。

とにかく始めての日本語の勉強は、楽しかったし面白いので熱心に勉強をしました。そのお陰で私は日本語担当の先生からほめられた記憶を未だに覚えています。今になって考えるとやはり先生にほめられることが嬉しくてもっと熱心に勉強をしたかも知れませんね。

しかしながら、日本語というのは段々勉強

していくにつれて当て字も多く難しくなってくるので、一時期は戸惑ったこともありました。これは私だけではなく、日本語を学ぶ外国人にとっては、同じような経験をしたであろうと思います。もちろんそれは人によっては程度の差、つまり人それぞれの立場や状況などによっては違いますが、しかし、尚且つ今の韓国の多くの学生たちは、日本語が他の外国語よりは易しいという印象をもっているようであるから、このようなところが日本語を勉強して行く上で大きな落とし穴かも知れません。とはいっても、韓国人にとっての日本語は韓国語（ハングル語）と文法的によく似

ているので、他の外国語よりは理解し易いところはあるかも知れません。

現在、私は長い日本での留学生活を経て、韓国へ戻り大学で教鞭をとっておりますが、今教えている大学生の中で、特に日本語に対し興味をもっている学生には、日本語のそういう点に十分な注意をして勉強するよう教えています。もちろん私は日本語の担当ではなく、美術史を担当しておりますので、さほど深くは立ち入りはしませんが、それでも学生の中には日本への留学を考えているとか、あるいは日本語に興味をもって相談に訪ねてくる学生には、私なりの留学の経験から感じたことをアドバイスしております。

何と云っても、私が日本語の勉強を始めた頃の韓国の社会の状況と、今の韓国の社会の状況は随分変わってきています。最近は、ごく普通に韓国にいながらもTVを通して日本のNHKのニュースとかいろんな番組を見えますし、それ以外の外国の放送も普通に見られますので、昔とくらべ随分勉強し易い環境になってきているのは確かです。その他にも、いろんな形であれ日本語や日本文化と接する機会も増えてきているのが現状であります。

まして私のように日本での長い留学の経験をしている者にとっては、日本語や日本の文化というものに対し、外国であるというような感じさえもあまりありません。ごく普通にTVを通して日本のいろんな情報を得たりしておりますので何一つ特別な感じはありません。それくらい親密感をもっていることでしょう。

しかし、もう一つ韓国の若者が日本語と同じように漢文化圏でありながらも、これまで韓国の母国語（ハングル語）に重点を置いて教育させてきた所為で、今の若者たちはあまり漢字を知らないのです。



科学技術の発展に伴って人々の交流がますます広がっている今日では、コミュニケーションの基本的な道具となっている言葉が発揮

一つの例を挙げると、日本美術史について教えるときにある学生がこういうのです。“漢字は難しいので日本語の平仮名・片仮名にして下さい”と。漢字は知らなくても日本語の平仮名と片仮名は高校時代に勉強したので読めるとのことでした。しかし、日本語にとって漢字は非常に重要な比重を占めているので、日本語を勉強する上での漢字の必要性については改めていうまでもありません。それでこのようなことについて説明をしたことがあります。最近になっては少しずつではありますが、漢字を勉強するような傾向にはなっています。ある大学では漢文学科という科まで設けて漢字を教えていますから変わりつつあるのは事実でしょうけれどもまだまだ漢字の教育は足りないのです。

最後に今になって私の日本語の勉強法について振り返ってみると、日本での私の日本語の勉強は、人と接する機会よりもむしろNHKの放送を通して得たことが多いような気がいたします。私が韓国で習ったのも標準語でありましたし、NHKの放送も標準語でありますから、そのような影響でしょうか。京都で留学生活を送ったにもかかわらず、私の日本語はどっちかといえば標準語です。それとときたまこのような質問を受けることがあります。“あなたはあまり関西弁を使いませんか。何故、京都に住んでいたのに関西弁を使わないのですか”と。よその人から見る場合、関西に住んだ人が関西弁を使わないということは不思議に思えるかも知れません。けれどもこのようなことはまず私自身が関西弁を使うという努力が足りなかったからでしょう。これからは学んだ日本語を忘れずにより一層を活用してゆきたいと思えます。

日本語とウイグル語

元京都北東ロータリークラブ奨学生
ビラール イリヤス
比拉勒 伊力亜司

(財団) 京都高度技術研究所

している威力については、説明するまでもありません。世界の新しい情報をより速くかつ正確に把握するには、専門知識だけでなく高

度な語学力も要求されます。特に現在のインターネット時代はそうです。

もちろん、一つの外国語を習得することは、それほど簡単なことではありません。しかし、勉強の対象となっている言語とその人の母国語の間に何らかの共通点があれば、その言語を身につけるのに大いに役に立つでしょう。したがって、身につけたい外国語と母国語の共通点を探し出すことも、その外国語をより速く身につけるためのよい方法だと思います。

自分の日本語の勉強法を述べる前に、まず簡単に自己紹介させていただきます。私は、あのシルクロードで有名な中国新疆ウイグル（維吾爾）自治区出身です。ウイグル族です。1993年から1995年まで二年間、ロータリー米山奨学生として、京都北東ロータリークラブでお世話になりました。1995年4月に京都高度技術研究所の연구원となり、今日に至っています。

私は母国語ウイグル語をはじめとする幾つかの言葉を読み書きできるのですが、言語学者ではないので、言葉の勉強法について人々に論じることができません。ですから、ここでは日本語の勉強法というよりも自分の日本語の勉強中に印象に残ったいくつかの体験を述べることにしましょう。

中国の西北に位置する新疆ウイグル（維吾爾）自治区は、地理的には日本とずいぶん離れています。ですが、驚くことにウイグル（維吾爾）語と日本語の語順（文法構造）が非常に似ているのです。この話は、来日のための日本語の特訓コースのことから始まります。今からおよそ11年前、新疆ウイグル（維吾爾）自治区から日本に初の留学生が派遣されることになりました。試験の結果、私も第一期生に選ばれ、短期間の日本語の特訓に入りました。この特訓コースに入るまでは、はっきり言えば日本語の知識どころか日本に関する知識も歴史の教科書で勉強した程度のものでした。学生時代に選択した外国語は英語でしたし、卒業してからも英語を使っていました。どこかで聞いた「日本語はトルコ語系に近い言語だ。語系上、ウイグル語に近い。」ということがかすかに記憶にありましたが、私は半信半疑でした。しかし、特訓に入ると、ウイグル語と日本語の語順が想像をはるかに越えるほど近いものであることが感じとれまし

た。あいうえおから始まった特訓がスタートして2カ月程たったある日、テストをすることになりました。先生はテスト用紙を配りながら「今日の問題は結構むずかしいよ。よく考えて答えなさい。」と言いました。予想外なことに、その時の私たち皆の得点はかなり高かったのです。翌日、先生が教室に入ってきて「君たち、本当に日本語はゼロからですか」と言いながら疑わしそうに私たちを見つめた時のあの表情を今だにはっきりと覚えています。後に、そのテストの中に大学の日本語専攻二年生の問題も混じっていたことを、その先生が話してくれました。テストの時に私たちがやったことと言えば、ただ単に、ウイグル語の語順で文章を作りそれを日本語の単語で入れ替えたことだけでした。

日本語の読み書きの上達につれて、日本語とウイグル語の相似点が単に語順だけにとどまらず、かなり細かな部分、例えば諺や表現といったものまで一致していることが分かってきました。諺が一致することはよくある話です。偶然かどうかは別として、それ程珍しいことではないのかもしれないと思います。ですが、細かい表現までが一致するとなると話は別です。仮に偶然だとしても、細かな表現までが一致するという事は、ものの見方や考え方が多くの点で一致するということの意味しており、互いの文化、歴史、風俗習慣を知る上でも検討する価値のあることだと思います。ここで色を用いた表現を一つ例に挙げましょう。御存知のように日本語では相手の話を否定する表現の一つとして「真っ赤な嘘」という言葉があります。ウイグル語にも同じ意味で使われる全く同じ表現、つまり「真っ赤な嘘」という表現があります。このような表現は、少なくとも私が知っている他の言葉では使われていないと思います。ここで例に挙げたのはただ一つの表現に過ぎないのですが、ウイグル語と日本語の間にはこのように極めて似た表現や諺が、実際、たくさんあるのです。



私の日本語の勉強法

元京都南ロータリークラブ奨学生

陳 禮 俊

京都大学博士課程

私は日本語を習い始めたきっかけは中学校を卒業して、台湾の台中にある国立台中商業専科学校応用外語科の日本語組へ入学してからである。勿論、幼い頃から英語とか、日本語とか、色々な外国語を話せたらいいなあという憧れもあったが、中学校で三年間英語を習った時平均97.5点という「好成績」の誇りを持ち、きっと日本語も簡単に習得できると自信満々であった。しかし、一旦習い始めると意外にもそううまくには行かなかった。クラスの最初の小テストでいきなり「赤点」を取り、挫折してしまった。あまりにも大きなショックを受け、これまでの人生の最大の危機を感じながら、暫く落ち込んだ。

その後、うまくできた「連れ」と相談して、少し苦労したとはいえ勉強法を修正した。やっと軌道に乗せたのは凡そ入学してから約半年後であった。

今考えてみると、その「半年」は非常に大事な時期であり、もしそのとき日本語の勉強をうまくクリアできなかつたら、恐らく「日本語」を恨み込み、まして日本へ留学することはまずあり得ないだろう。そういう意味で日本語のみならず、「外国語」を習う時、特にスタート時点での勉強方法は極めて重要だと思っている。そして誠に恐縮であるが、この機会を用いて、日本語の達人の学友会の皆様に私なりの日本語の勉強法の経験を簡単に報告し、交流の意を深めたいと思っている。

まず一通り語学勉強の段階：発音、文法、読解、作文、会話等の「古典科目」を習得し、「日本語の味」を取りあえず味わうことである。此処で「冗談半分」と言っているわけではなく、自分は本当に「正規ルート」で日本語の才能を発掘できるかどうかは一年間から二年間、長くて三年間の基礎勉強をかけてある程度把握できるはずである。もしこの段階で、かなりの日本語力を身につけることができ、スムーズに進歩していけば最も理想的であるが、問題はうまくいかない場合はどうす

ればよいかにある。勿論、もっと時間をかけて、じっくり勉強すれば、上手になれるはずであるが、あまりにも効率が悪い或いは一定の限界で詰まってしまうのを感じる時、むしろ少し方向を変えて「独自の勉強法」を考える必要があると思っている。この「独自の勉強法」は無謀な「あらゆる手段」を使うより、自分の性格をあわせた方法の方が効率がよいたと考えられる。

私自身の経験からいうと、まず話したいことをすべて日本語に直す。日本語に直した文書は一応「作文」だと考えて、翻訳の練習にもなる。次に複数の「作文」を組み立てて、「文章」を書く練習を行う。そして「文章」の意味を流暢に伝えるように色々工夫をして修正する。最後に先生とか、先輩とかにチェックしてもらうこと。

この方法は一見非常に簡単であるが、理論上にも当たり前と言えれば当たり前のことだと思われるが、一旦やり始めると、「勇気」というものの重要さはわかってくる。つまり、この方法は「勇気のある人」より、「厚かましい人」こそ効果的である。だからといって、私は最初から「厚かましい人」ではなかったかもしれないが、今でもあまり上手になれない。(以上冗談半分)

そして次は日本語を話す(使う)機会を作る。本国にいた時、日本語の勉強に最も不利な点は恐らく日本語を話す(使う)環境がないところにある。しかし環境が悪いと言う理由で日本語を話す(使う)のをあきらめるのは早過ぎる。周りに、日本人以外にも日本語を少しでも話せる本国人が必ずいるはずである。例えば、日本語の先生、同級生(或いは学友)達との練習、交流は非常に効果がよいである。

一旦日本語を話し出す(使う)と、普段の勉強で不注意或いは理解しなかったところからはっきりと発覚でき、直ちに修正できる。言葉の勉強の最も重要な役割の一つはコミュニケーションであり、使わないと、まさにコ

コミュニケーションができない。

もう一つあまり望ましくない現象が屡々生じる。それは日本に二、三年間留学しても未だうまく日本語を使えない現象である。或いは学業を終えて本国へ帰ったら、苦勞して覚えた日本語をあっという間に忘れてしまう。その根本的な原因は恐らく、日本滞在期間中にあまり日本語を話してなかった事だろう。つまり、コミュニケーションに欠けていると言えるではなからうか。この点において、われわれ米山奨学生（学友会）は非常に恵まれていると思っている。日本で生活経験を生かして、将来本国の国際交流にきっと貢献



日本に来たときに、日本語がぜんぜん分からなかった。最初は京都大学の国際コースに入学したので、授業と自分の研究は全部英語だった。しかし、日本に一年半も住むつもりなので、研究のほかに日本語も勉強したかった。ある日、大学の留学生センターの事務室から回覧が来た。「色々な日本語のコースがあるので、好きなコースを選んで下さい。」と書いてあった。言語の勉強はやっぱり始めからまじめに勉強した方がいいと思っていたから、インテンシブ・コースを選んだ。しかし、「国際コースの学生ですから、こんなコースを入れないです！ オプショナル・コースに入ってください！」と事務室の人が断った。

というわけで、あれから最初の半年に僕はオプショナル・コースで日本語を勉強しました。クラスは週に一回だけでした。先生の大好きなことは発音でした：「言葉について、発音が一番重要なことですから、みんないっしょに練習しましょう：あーいーうーえーお！ 今、一人ずつ：あーいーうーえーお。もう一回！ あー…次の人：あー…」そんな勉強の結果は言わなくてもみんな分かるでしょう。そして、半年も経ったのに、僕は「こんにちは」、「さようなら」と「あーいーうーえーお」しかできなかった。友達もこのクラスを

できると信じている。

この二つの方法は私の日本語の勉強に非常に役に立っていると思っているが、もう一つ付け加えたいことは上品（上手に）な日本語を使うために、少し長い文章を書く練習或いは暗記をする必要がある。一週間おきに長文を書く練習をすとか、日本の名作の一段落を暗記すとかによって、その効果は時間の経過とともに、段々反映していくと思っている。

以上簡単ながら、私の日本語の勉強法を報告致します。また学友会の皆様の経験を聞かせてください。宜しくお願い致します。

私の日本語の勉強法

世話クラブ：京都西南ロータリークラブ

ノボトニー・トマース

京都大学博士課程

やめて、私立の日本語の学校に入った。

どうしても日本語を勉強したかったから、僕はもう一回留学生センターへ行ってみました。あのときに、受付は前と違った人だった。「はい、インテンシブ・コースはだめですけど、オプショナル・コースのほか、セミ・インテンシブ・コースがあります。もし好きなら、どうぞ入って下さい。」と親切に教えてくれた。あの時から、つまり日本に来て半年あとに、やっと本番の日本語の勉強が始まった。博士課程コースの入学試験を準備しなければいけないし、自分の研究にもかなりの時間を取られてるし、毎日はずごく大変だった。それでも毎日続けて早く日本語の授業へ行っていた…

博士課程コースに入ってから、ますますいそがしくなってきた、残念ながら日本語のコースを継続できなかった。今はもう日本に三年間も住んでいるけれど、知ってる日本語はすべてセミ・インテンシブ・コースの半年で習ったんだ。“もっと習いたいけど、なかなか…”と思いながら三年も経た。それが僕の日本語がまだ下手の原因だと思う。



わたしの日本語の勉強方法

世話クラブ：大東ロータリークラブ

ポダルコ・ピョートル E

大阪大学博士課程

私が日本語を勉強し始めた時は、ロシア連邦（当時旧ソ連）のシベリア地方におけるノボシビルスク国立総合大学人文科学部に入学した1982年の頃であった。専攻は歴史、外国語の科目とした日本語も、一週間五回の授業となつて、ある程度第二専攻とも言えるだろう。

当時のロシアは、ペレストロイカどころか、冷戦もまだ続いていたため、教科書・辞書なども日本人の著者よりもロシア人が書いた本が多く、他の資料も少なかった。しかし、先生が、ロシア人でも日本語は非常に素晴らしく、授業を面白く行なっていたため、私は日本文化・言葉・習慣などに関して興味を持つようになって今でも先生に感謝している。

授業の内容は、カタカナ・ひらがな・漢字を含む正書法、統語法、文法などがありました。ロシア人は普通、日本語を習う時に、日本人と違って最初からひらがなではなく、カタカナを覚える。なぜならば、恐らくカタカナの書き方はもっと簡単で、ロシア語の文字の形に近いかもしれません。漢字の場合、一年生から大学を卒業するまで私達は、だいたい一千字ぐらい覚えてしまい、それは日本語能力試験の要求に比べれば、2級を越える数である。しかし、一番問題となるものは、ロシア人の著書で書いた本は、どれぐらい正しいのか、古くさくなっていないのか、それはいつも気になっていたものである。

もちろん、1982年から日本語を勉強し始めたと言っても、それはずっと14年間にわたって勉強が続いた訳ではなかった。

日本語以外に、多くの科目が20程あり、また大学を卒業してから仕事の面でも日本語ばかりではなく、それに全く関係のない研究などもした。再び日本語が私の日常生活の中心となったのは、1993年4月、大阪大学大学院に入学してから、論文も日本語で書くという決定の時である。その時から私は、文語体と口語体の相違がやっと理解できる様になった。先ず、世界地図で見るこの小さい国は、

実際に旅行してみると、風土や言葉をはじめ慣習など、地方ごとに特徴のある多様な文化があるのに大変驚いた。特に、私の居住地とした大阪には、有名な「関西弁」、その中には「京都弁」、「大阪弁」、「兵庫弁」などがあり、それを学ぶために「やっと好機が到来した」と感じがあった。私は現在、研究しているテーマは、「日本におけるロシア人」というもので、異文化間コミュニケーション、異郷の受容・その言語の問題などを調べるとともに、自分の「言語の知識」、「言語の能力」をできるだけ直したい気持ちもある。日本に来てから、もう特別の留学生向けの日本語の授業を取っていないが、個人的に回りの人々・友達、国内旅行の時なども、どんなチャンスがあってもそれを使用するようにしている。もちろん、日本語を勉強すればするほど、それは切りがないことと良く分るが、前の大学で受けた基礎の知識に日常生活の言葉・特に方言を加えれば、より上手になる可能性がある。また新しく覚えてきた言葉・発音のニュアンスを良く書き留めて、自分の話しの中でなるべく使うようにすれば、それはちゃんと身につけられると思う。

14年前に日本語を勉強し始めた頃を振り返ってみると内心ほこさえることもある。電車やバスの中で日本語の本を読んだり、「私の家族」、「私の1日」などの簡単なテキストを復習していた学生の私と、今週末に紅葉の旅で嵐山の「おっさんたち」としゃべっていた私は思わず、同じ人物か？と疑う。しかし、翌日、友達と話しながらまた2・3回言葉使いの間違い、そして発音のなまりから「自慢する時期はまだまだ」と複雑な思いだ。



わたしの日本語の勉強法

世話クラブ：大阪住吉ロータリークラブ

ベリンガー・フランク

大阪市立大学学部4年生

私はドイツで生まれて、ずっと26才までドイツで生活をして、ドイツの教育を受けて来ました。ドイツの教育は外国語を勉強することを積極的に受け入れています。高校では第一外国語に加えて第二外国語を選ばなくては行けない。第一外国語は英語と決められて、第二外国語は自分の選択によります。主にフランス語、イタリア語、ラテン語、ロシア語、いわばヨーロッパの言語が多く選ばれています。私もそのように英語とフランス語を勉強してきました。英語はその2～3年前から勉強してきましたから、フランス語もそれほど難しくないと感じました。それからほぼ2年後、大体マスターしたといえるでしょう。

そして、大学の途中でしたが、日本に来て日本語に挑戦しようと思いました。実はドイツの大学で2年間中国語の勉強をしましたので一番基本的な漢字はある程度習得していました。それにしても、日本語は大きなハードルでした。ひらがな、カタカナ、漢字、それから音読み、訓読みのちがひ、敬語、謙遜語のことば使いなどは私の頭を迷わせました。中国や台湾の留学生の場合、母国で漢字を習得したので漢字や仮名の勉強はあまりしんどくないようです（それらのアジア系の人々は漢字の読み方さえ焦点をおけば十分ですから）。しかしヨーロッパ人（一般的に欧米人といってもいいですが）にとって漢字は新領域ですので非常に苦勞をしなければいけないということです。ゆえに勉強の仕方がたいへん重要な問題になります。限られた期間に日本語をどうすればマスターができるかという質問に自分なりの答えを見つける必要があると思います。例えば私は絵の記憶はことばの記憶よりも優れているので、たくさん絵が載っている日本語の教科書あるいは本での勉強がもっとも効果的です。もし自分の記憶力が言葉の領域で優れていればそれに向いている勉強法をすればいいと思います。さらに、文法を中心にするかしないか、という疑問も

できます。わたしは文法が嫌いですからあまり勉強しなかったけれども、それはただ嫌いだというよりも一つの勉強法として考えているのです。つまり子供が勉強するように、ことばや表現を自然的に吸収して、真似によって上達していく。そのプロセスには理屈や規則がなく、自分の直感や想像を利用しています。もちろん、大人は子供と違ってどうしても自分の理屈を使おうとしていますから完全にそのやり方では行かないという考えもあります。ですからある程度文法を学習することも必要です。しかし文法を中心にするか、又は自然学習的な方法を中心とするかという選択ができます。わたしは後者を選んで日本語を勉強しました。

具体的なことを言いますとつぎのようなやり方で進んで行きました：

1. 他人の会話を聞く

道中であったり、電車の中であったり、パーティーの場合であっても、私はなるべく他人の会話を理解しようと思いました。そのため、どこに行っても小さな携帯用和英辞書（あるいは国語辞書）をもって歩きました。一回だけ忘れて行って、もったいないなあと後悔したことがあります。そして、外出しているときに何かの分からない単語、表現などが耳に入っていたら、そのことばをすぐ辞書でしらべました。このことは外出のときだけではなく、もちろんほかのいろいろな場面にも当てはまります。テレビを見るとき、ラジオを聞くとき、新聞を読むときにいつも辞書を近くにおいていれば分からないことをすぐ調べることができます。そうしないと、せっかく日本に住んでも日本語を勉強できる環境を見逃してしまうことになります。上記のような勉強法は机での勉強よりも効果をもたらすのではないのでしょうか。

2. 日本人の友達をつくること

自分の日本語力を高めるために、多分一番楽しい方法として、たくさんの日本人の友達をつくることあげられます。これもまた一番自然な勉強法でもあります。たいていの日本人は外国に関心をもっていますから、自分から積極的に話せば、かなり速く友達ができると経験しました。ところが、私にとってひとつの不思議な、日本語の勉強の妨げになることをここでいう必要があると思います。それは私が欧米の人であると関係がありますが、つまり日本人の相手がしばしば英語で言葉をかけるということです。それは私が先ず日本語で何かを尋ねるときもよくあることで驚きました。私は英語はかなりできますが、それはイギリスやアメリカにも住んだことがないですから勉強や努力の結果だけであって当然ではありません。ですからたくさんの日本人は欧米の人はみな英語が母国語だと思うのでしょうか？しかしここは日本ですから、日本語が共通語です。もし私がだれかに日本語で聞くと、返事が片言の英語できたら少しおかしい感じがします。これは例えばドイツでドイツ人は日本人に道を聞かれるとき中国語で答えるのと同じぐらいのことです(少なくとも私にとって)。日本人のみなさん、もしあなたはドイツにいつの間にか例えば“Wo ist der Bahnhof?”(駅はどこですか)を聞くと、相手は中国語で「前辺：Qianbian」(前の方)と返事をするとうどんな気分になるでしょう。そういうことを外国人に対してもう少し理解してもらいたいと思います。

それにしても私は日本人の多くの人と友達になって、非常にいい交流ができました。ある意味で勝手なことかもしれませんが、私はなるべく日本語でしゃべってくれる友達がさがしました。やはりそうしないとなかなか日本語が上達しません。ただ母国語や英語で会話をすることはそこまでいいのですが、日本語をマスターするには何の役にも立ちません。留学生には特に日本語が大事なことから、沢山の(日本語で話してくれる)日本人と友達になることを勧めます。

もう一つの勉強法もお勧めできますが、それは日本の方と結婚することです。それは言語の学習以外に国際理解をも深めていくための第一歩にちがいません。わたしもその道を選びました。現在日本人の妻と1才の娘

と暮らしています。

3. 正式的な勉強

「自然な勉強法」や「友達をつくること」を述べたから第三に、正式的な勉強法を言わなければなりません。正式的な勉強をするには学校あるいは知り合いとの個人レッスンあるいは交換レッスンという2つの方法があります。私は個人レッスンが一番効果的だと思います。なぜなら授業が自分のレベルに合わせられるからです。グループレッスンあるいは学校での授業もいいですが、クラスの人数は10人以上になりますと、自分の発言が少なく、会話が十分できないという恐れがあります。正式的な授業の利点は次のようなことでしょう：

- ・約束：決まった時間に定期的に勉強すれば怠ける予防になる。
- ・レベルチェック：自分はいったいどのくらい日本語ができるか先生のテストなどで知ることができます。
- ・目標：ただぼんやり勉強するのではなく、なにかの目標(例えば日本語能力試験一級)にそって勉強をすることによって動機や野心が生じます。

その他、大変日本語の初心者役に役立つ簡単な技術はワードカードの作成です。初心者はまずたくさんの単語や文字語意を覚えなければなりませんから、それを一つのやり方としてあげられます。新しい単語をすべてワードカードの表面に書いて裏にその意味や説明を書きます。そして、少し時間があるとき、例えば、電車の中などでカードを取り出して読むことができます。われわれ留学生のほとんどがアルバイトをしながら学生生活をしていますから時間を大切にする必要があります。普段無駄になってしまう乗車時間などを勉強のために利用すると非常に時間を有効に利用出来ます。ゆえに留学生にしても一般の忙しい現代人にしてもそのような工夫が欠かせないと思います。

(注. ベリンガーさんは平成8年4月に日本の女性と結婚されました。おめでとうございます。写真はご夫妻です)



私の日本語の勉強法

世話クラブ：大阪堂島ロータリークラブ

黄 偉 鵬

関西大学学部3年生

「わからない」という言葉は私には一番印象深い言葉である。四年前の春私は日本に来た。その時、入国管理や税関の方などにいろいろ聞かれた時私は「分かりません」しか答えなかった。私は日本に来てから初めて日本語を学んでいるから、最初の時に本当に分からなかったことが山ほど多かったので非常に不安だった。

日本に留学しに来た留学生は基本的に日本語学校で1年間のコースで日本語を学ぶだが、私も例外ではなかった。日本語学校で最初のレッスンはやはり「ひらがな」と「カタカナ」を覚えないと授業が進まない。私は「ひらがな」を何とか覚えたが、「カタカナ」を覚えるまでかなり苦労した。しかし、その時担当、先生に「普通日本人でもカタカナを完全に覚えられない」と聞いて、ほっとした。

どんな言葉を学ぶ時でも、最初は必ず会話や発音などのテープを聞かないといけないので、私は毎晩先生が配ったテープを一生懸命聞いていたのだが、結局ベッドで寝てしまった。それは一度だけではなかった。テープの内容が面白くないので、テープを聞く気もだんだんなくなってきたからだ。そして、学校で毎日「漢字テスト」や「文法テスト」などがあって、毎晩私は自分の部屋で日本語の勉

強を頑張っていた。私はその次の日のテストに合格するために漢字や文法の仕組みなどをいっぱい覚えていた。しかし、このような勉強法は漢字や単語を覚えて、テストは合格できたのだが、会話で使いたい言葉がなかなかずっと頭から出なかったので、私にとって何らか物足りないような気がした。

このような勉強法を無意味だと考えていた私はその頃テレビをよく見ていた。テレビで映像と音声だけではなく、たまに文字放送もあるから、私はテレビを見ながら、分からない言葉があったらその人の表情や周りの環境を見て理解している。そして、私は自分の聴力をよくするために、毎朝ラジオの放送を聞いて分からない言葉があったら辞書を引いたり、先生達に聞いたりしていた。一番勉強しやすいのは毎朝ラジオの天気予報や交通情報を聞いて自分の聴力を強くすることである。

私にはたとえ日本に4年間住んでいても分からない言葉がいっぱいある。特に大阪に住んでいる留学生達は標準語だけではなく、大阪弁も学ばなければ生活がスムーズにいかない。これからもっと上手な日本語で話したり文章を書けるように頑張っていきたいと思っている。

私から見た日本と日本での生活

世話クラブ：池田ロータリークラブ

趙 永 載

大阪大学博士課程



まず、私の自己紹介を簡単にしますと、私は昭和39年韓国のクレという小さい町で3兄弟の長男として生まれました。小学校、中学校、高校を卒業し、韓国の真ん中に位置している国立忠北大学材料工学科に入学し、2回生が終わったところに、3年間軍隊に行っ

きました。ご存知かも知れませんが、韓国の場合は徴兵制度があるので、男ならば義務的に行かねばなりません。

私が日本への留学を考え始めたのは、軍隊から大学に復学して半導体材料に関して深い興味を持つようになったからです。留学先を

日本に決めたのは、日本の半導体材料技術は世界でも最先端をはしているからです。それで、大学を卒業後、大阪大学に研究生として入学、平成5年4月、大阪大学基礎工学研究科電気工学分野浜川研究室に修士課程に入学以来、半導体の中でも薄膜EL素子の高機能化に関して研究を行っております。家族構成は同じ留学生で奈良先端大学でComputer Scienceを研究している妻と今年6月生まれた子供と3人で暮らしております。

それでは本題ですが、まず、日本に来て初めてうけた印象に対してお話したいと思えます。初めて大阪空港につき、宿舎の大阪大学留学生会館を、一人で、留学生しおりに書いている地図のとおり探して行きました。ご存知かも知れませんが、大阪大学留学生会館は吹田市さつきが丘ですが、阪急南千里駅で降りて、会館までお金を節約するためにバスに乗らずに歩いて行きました。しかし、途中で道に迷ってしまいまして心境は複雑でした。その時、自転車に乗って通り過ぎる一人のおじさんがいまして、下手な日本語で会館までの道を聞いてみましたら、そのおじさん、私が心配だったのでしょね。かなりの距離だった会館まで一緒に行ってくださいました。行ってみてからかなりの距離だということが分かりまして、見ず知らずの外国人のためにこんな遠い道をとと思ったら、感謝の気持ちと申し訳ないという気持ちがこころのそこからあふれてきました。そのおじさんのあたたかい微笑みは今も忘れられません。日本のひとは親切であるということを感じました。今、日本に来て6年くらい住んでおりますが、その印象が変わりがありません。日本人の人に対するやさしさを感じ入った例はこれ意外にも沢山ありますが最近、感じたことについて述べますと、家内と私の歯が弱くなりまして歯医者さんに見てもらったことがあります。韓国の場合は食べ物の材料に固いものが多くて、歯が丈夫なほうでしたが、日本に留学して柔らかいものばかり食べてしまって歯が弱くなったみたいです。歯を直すのに約10日間病院に通いましたが行くたびにお金をもらわないので聞いてみましたら、治療が全部終わったらまとめてもらいますと言われました。治療が全部終わってお金を払おうとしたら、物価の高い日本に勉強に来る留学生に院

長先生なりの助けのお気持ちでお金はもらえないということでした。本当に周りのみなさんにやさしくしてもらいまして外国に住んでいることを忘れるくらいです。

でも、こんなに親切な方が多いから分かりませんが何も無いことに不快感を感じることもありました。その例として、耳のことで耳鼻咽喉科に行ったことがあります。思ったより状態がひどかったかいろんな検査を受けないとだめだというお医者さんの話から私は持ってたお金が余り無かったので心配で看護婦さんに聞いてみましたら、次回に来るとき残りの分を持ってきてもいいよということで安心して検査を受けました。検査が終わって治療代を払おうとしたらやはりいろんな検査を受けたためお金も思ったより多く出ました。でも前もって聞いてみまし大丈夫だろうって思いながら、受け付けの人に今持っているお金がこれしかないのだから次回に来るとき持ってきてもいいですかと確認しましたら駄目ですという意外な答えが返ってきました。それでどうしたらいいですかと聞きますと保険証を預けてくださいとのことでした。仕方なく保険証を預けながら内心かなり気分が悪かった事を覚えています。自分が信じてもらえなかったのも悔しかったです。まあそれはなんとか理解できます。なぜかという人間って分からないものですから。しかし、今まで治療代が足りなかった経験は、何回かありましたが、保険証などあずけろということはありませんでしたのでびっくりしました。最初から言ってくれたら次回に検査を受けたはずなのに、検査が終わった時点で駄目だと言われると困りますね。

もうひとつ言いますと、日本にきている留学生なら一度はいやだと感じるころがあります。それはVISAなどを発行してくれる入国管理局であります。留学生の場合、年に一回は必ずVISAの延長をするべきですが、それがですね、みんないやがるんです。なぜかといえば、VISA延長のため入国管理局に行って帰ってくる時は複雑でかなりいやな気分になります。どうしてこんな扱いをされなくちゃだめかなどですね。それはまったく警察で審問を受けているimageです。もちろん、最近留学生も増えているし、またいろんな国からの外国人が不法滞在の問題で頭を痛がら

せるから、そこで働いている方々が理解ができないわけでもないですが、ここに来られているみなさんもそうでしょうけど、自分を信じてもらえない時、一番悔しいじゃありませんか!! 入国管理局の人々はこの人がお金を稼ぐために日本に来てるか、勉強をしにきてるかくらいは判断できるくらいのプロだと思いますがそうでもないんでしょうかね。今年4月、VISA延長のため入国管理局に行ってきましたが、雰囲気が変わったことが分かりました。VISAの発行なども早くなっているし、職員の方々も親切になっていました。これで、日本に対する悪いimageは入国管理局でうけるといふ意見はなくなると思います。

次は文化の話をしたしたいと思います。文化と言っても文学部で扱う文化みたいに大げさな話ではなく単に、私が感じたことを述べたいと思います。日本と韓国の文化は似ていると言われていますが、その内面をみると全然、反対なこともあります。たとえば、食べ方というか姿勢ですが、日本では茶碗をもって背中をまっすぐにしてご飯を食べますが、韓国ではちゃわんをもたずに肩を前の方に傾けて食べます。また、ご飯と汁をおく位置ですが、日本では汁が左側でご飯が右ですね。韓国はその反対です。それ以外でも調べてみればいろいろあると思います。ご飯を食べる箸も、日本は木で作った箸が主ですが韓国は鉄で作った箸が主とか。

ここで、食文化の話をしたと思いますが、中でも汁の話をしてみたいと思います。私は昼ご飯と夕ご飯を大学の食堂で食べますが、365日いつも味噌汁だけがついてるので日本は味噌汁しかないと思いました。それも具は豆腐とワカメしか入らない。韓国の場合は汁の種類でも十種類くらいあるのに日本には味噌汁しか汁がないかと私は疑問を持ち始めました。研究室の後輩と一緒に食事する機会がありまして聞いてみました。彼は笑いながら答えてくれました。日本でもたくさんの汁があって味噌汁の具だけでも学食みたいに豆腐とワカメしか入らない味噌汁は普通の家庭では見かけないとのことでした。日本で6年も住んでるのにあまりにも分からない自分がちょっと恥ずかしく思いました。友だちは結構いますが、その家まで遊びに行ってお飯をご馳走になる機会がなかったのです。米

山奨学生になる前にはバイトなり、研究なり自分なりに余裕がなかったのです。まあ、それはそれで、あの時から日本の食生活について関心を持つようになり、食べられなかった寿司もたべられる様になりましたし、日本の味に慣れてきました。

味といえば、日本の方が韓国より淡泊です。ご存じと思いますが、韓国の料理といえば、キムチにしろ焼き肉にしろなにしろ材料が沢山入ります。例えばキムチは私の好物の一つで月一回か2回位家でするんですが材料が10種類以上入ります。主材料である白菜の味より付材料の組み合わせた味とも言えます。

焼き肉もそうですが、韓国式の食べ方は手の上に野菜と肉を載せて食べます。乗せる順番は決まってないですが、食べ方のその一つの例を言ってみますと、手の上にチシャカレタス、その上にしそか菊菜、その上に焼き肉、スライスしたネギ、その上さらに味付けしたみそをのせて包んで食べます。なんか食べたくなっちゃいました。(ははは^^) とりあえず何を入れてもいいからおいしく食べればいい、これが韓国の味です。

日本の場合は、韓国と違って一つの素材を用いてその素材の特徴の味を生かして食べ物をつくりますね。例えば、漬物がそうですし、握り寿司とか刺身がそうです。もちろん韓国にも刺し身はありますが、ちょっと感じが違いますね。漬物も韓国の漬物と違ってその素材の特徴の味を生かして作るわけです。私はほとんど日本食(和食)を食べたことがありますませんが米山奨学生になって月一回の例会に参加し、和食をごちそうになっておりますが、やはり料理のほとんどが一つの素材を用いてその素材の特徴の味を生かした食べ物でした。

次に食べ物の量について触れてみたいと思いますが、おもしろいことに日本と韓国のちゃわんの大きさがぜんぜん違います。たぶん韓国の方が2倍くらい入ると思います。日本は健康的に「腹八分目」ということわざがあるくらい少なめに食べますね。もちろん若い者は違うと思いますが。

韓国は日本と違ってご飯もおかずも器(うつわ)いっぱい盛ります。食堂から出るおかずの数もすごいです。本当に全部食べられないくらいです。また、韓国人はある程度親しくなったら「おかわり」くらいは気楽に言え

ますので、お母さん達はいつ飛んでくるか分からない「おかわり」に備えておおめに作るわけです。食べ物が全部食べられなくて腐って捨てるかもしれないのに、それがお客さんに対する礼儀で「もうないです」と言い返すのは大変失礼なことだと思ってるんです。私の家内はしょっちゅう失礼をおかけしてますけど。まあこれも人と家庭によりますが。よく考えてみますと、こういうのは逆にいえばちょっと無駄づかいかもしれません。これはお客さんに対する礼儀を取るか、財政をとるかの問題ですね。

日本の場合、一般の家庭ではどうか分かりませんが、食堂からでるご飯もおかずも少量ですし、おかずも少ないです。だから残らず全部食べられますし、むだづかいにもならないわけですね。私はご飯はいつも「おかわり」しましたが、おかずはさすがに言えませんでした。韓国では気楽に言えることが、まあそれはだれもが「おかわり」するから自分が「お

かわり」しても目立たないし、また「おかわり」するのはお客さんのほうも店のご主人さんのほうもあたりまえだと思ってるからかもしれません。これが日本と韓国のもうひとつの違いですよ。

また、食べ物の形ですが日本の場合、食べ物に色を入れたり、細かく形を作ったりします。つまり、食べ物にも手をかけて見かけを綺麗にするのを大切にしていますね。たべものがどうしてこんなにかわいくきれいなかたちになりうるかと思うくらいの、食べるのにはもったいないお菓子をみたとき、「すばらしい」「ここはやっぱり日本だな」と感嘆の声をあげます。その声をあげるのは家内のほうなんです。とりあえず、食べ物にも心を込めてするわけですね。韓国はそうではないということではありませんがお菓子の王国である日本に比べれば、あとの言葉は省略させていただきます。

(注：以上はクラブでの卓話によるものであります)



私の日本語の勉強法

世話クラブ：西脇ロータリークラブ

王 長 龍

神戸大学博士課程

言葉の学習は現代人にとっては逃げても逃げられない課題の一つである。特に我々のような東洋人がまずぶつかるのは英語というおおきな壁である。私の出身地である台湾では「英語は大変重要ですよ」と年上の人に言われながら成長する子供は少なくないと思う。島国だから、外部とのコミュニケーションを重要視するのは理解できるが、大学ではテキストは国語以外すべて英語テキストで、何か不平等であるという気持ちは大学生の間でのおしゃべりのときにしばしばうかがえる。外国の学生たちがベッドに横臥して化学などの教科書を読むのとは比べられないほどの苦労があった。これは一種の宿命だと認識するしかないだろう。

概して、世界は大きく東と西に分けているのに対し、言葉の学習も東西の文化、コンセプトの違いによってずいぶん違ってくる。東洋的な言語学習法では文法を十二分に理解し

た上で意味を理解して勉強するのに対し、西洋では文法はとにかくどうでもいいから、雰囲気と体でその意味を感じながら、自然的に習得するのがこつらしい。その結果、東洋人の場合は外国語の文章は読めるものの、話すことは全然できない。西洋人は外国語の文章を読むとかなり障害が生ずるが、話すことは極自然で関心させられるものがある。しかし、ここでがっかりするのは早すぎる。言葉の学習はどんなコンセプトを持っているか、どんな環境に置かれるかはともかくとして、頑張ればどうにかなるのである。

さて、日本に留学してる私は英語学習の経験を通して、日本語をマスターしなくてはならない立場から私なりの日本語の学習法を報告する。台湾も日本も同じ漢字を使う国であるため、私は日本語を学ぶときも随分得したに違いない。以下その「利点」を前提にして、日本語学習の実践過程を紹介する。

辞書は言葉学習の道具としてとても重要だ
と思う。辞書の種類は少なくとも四種類を用
意しておくこと。使用頻度の順で並べておく
と、国語辞典¹、日中辞典、外来語辞典、漢
和辞典、このほかに、英語離れを防ぐために
和英辞典、英和辞典も必要であろう。この中
で、できるだけ国語辞典を使うことを心がけ
る。そのメリットという、「日本語方式で
考える」というトレーニングになるのである。
大概ほとんどの人は日本語を見るとすぐ母国
語でその意味を捉えるのは、「日一母国語辞
典」を使った後遺症であると私は解釈する。
こうすると、学習対象になる外国語の雰囲気
を十分楽しめなくて、その外国語の真髄を取
り込めないであろう。しかし、最初に「国語
辞典」を使うと分からない単語がいっぱい出
て自信がなくなるのではないかと聞かれること
がある。そこがもう一つの挑戦と思って、分
からない単語に出会うとさらに辞書を引く、
まだ出るとさらに調べるといって根性を自分
が培うしかない。

日本の漢字の発音はとても複雑で、規則外
のもの（地名とか）を無視しても、当用漢字
の可能な発音をできるだけ把握するように努
力する。私の場合は特に動詞の長い発音が苦
手で、特別な暗記法を自分で考えた。おもし
ろい例を挙げると、

「葬る」を「ホーム (home) + る」、
「施す」を「ほとけ様を越す」・・・等で暗
記していた。

ラジオとテレビを生かすのも重要である。
ラジオを聞きながら、分からない単語をまず
ひらがなで控えておく。その後、ひたすら辞
書を引きながら単語の意味を理解する。ラジ
オの放送といえば、NHKの放送はとても気
に入っている。ローカルラジオステーション



私は初めて習った日本語の言葉は「愛して
いる」という言葉である。この言葉は米米ク
ラブというバンドのヒット曲のタイトルで、

だと関西弁とか俗語がいっぱいで辞書を引い
ても解決できないことが多いからである。

テレビのニュースを見て翌日の新聞を買っ
て対照的に学習することもできる。さらに、
おもしろいと思う記事を精読する。私は「毎
日テレビジョン」のニュースを見たら、「毎
日新聞」を買うように、テレビ局と新聞社を
ペアで組んでいた。先進国の日本では、障害
者のためのニュースは短いけれど毎日放送し
ている。初期のヒアリングの学習についてと
ても役に立ち、このニュースでは字幕が付い
ているので、特に学習しやすいと思います。
ほとんど毎日見ていた。

主要な手段は以上のように述べたが、もう
一つもっとも重要なのは「学習の態度」だ
と思う。私はいつでも、どこでも「変だー！」
と思う日本語を直ちに手帳に書き込む習慣が
ある。電車に乗っても、スーパーで買い物
をしていても、電車の中の注意書き、スーパ
ーの宣伝文句、周りの日本人の会話をよく見
て聞いて、分からない単語、疑問のある文法、
会話、何でも小さい手帳に控えておく、その
後、辞書で意味を吟味すると、いつも意外な
収穫がある。このようにして、日本語を身に
つけた。

以上が私の日本語の勉強法の報告である。
日本語を勉強している方に役に立てれば幸い
と思う。

1. 私が使った国語辞典は以下のものである。
三省堂国語辞典：「とする」「として」のような連語
はよく載っているので大変助かった。
三省堂新明解国語辞典：解釈がとてもモダンでおも
しろい。
小学館現代国語列会辞典：外国人が紛らわしい単語を
表にまとめているので、便利である。

わたしの日本語の勉強法

世話クラブ：西宮夙川ロータリークラブ

トゥーン・チェンリー

関西学院大学学部3年生

当時日本語と接することのない私にとって、
この言葉はまさに日本語を代表した言葉であ
った。当時、私は歌詞の意味がわからなかつ

たけど、[愛]という言葉の意味は、世界のどこでも通じるから、その歌の伝えたいメッセージはわかっていた。

日本に来てから、いろいろな日本語の勉強の仕方を試して来た。マンガを読んだり、歌を歌ったり、ドラマを見たりしてみた。歌を通して、日本語を勉強するのは一番効果的だった。日本語学校で標準語あるいは文法を勉強したけれども、やはり日本をもっと知るのに違った方法で勉強する必要があった。授業が終わっても、日本語の勉強は続いた。歌は私にとって、日本語をもっと学びたいインスピレーションでもあった。音楽と言語というのは別々のものだと思われるかもしれないが、音楽と言語は結びついていると私は感じている。

初めて日本語の歌に挑戦したのは、日本に来てから2週間目のことだった。当時、ひらがなしか読めなかった私は「愛している」という歌を歌った。歌詞はほとんどわからなかったが、音楽を楽しめることと、外国語である日本語で歌を歌うことは私にとって新しい世界への第一歩だった。

それから、私は日本の歌にたいして興味を持ちはじめ、もっとうまく歌えるように歌の歌詞をしっかりと勉強し、きれいに発音できるように一生懸命練習した。「世界中の誰よりきっと」という歌をマスターしてから、私の二回目の挑戦をした。一曲を完璧に歌えたことは私に自信を付けてくれた。だんだん日本語の単語も自然に覚えられるようになり、歌の中の漢字も読めるようになった。二ヶ月後、私は四曲ぐらい歌うことができ、日本語の授業での聞き取りもよくなった。それだけではなかった。友達もいっぱいできた！

もちろん、日本語の勉強はただ音楽にとどまったのではなかった。私はよくテレビを見ていた。テレビのニュースをよく見たが、当時私にとって、あまりにも難しかったから、当然わからなかった。でも、コマーシャルやクイズ番組やドラマに対して、とても興味があって、できるだけたくさんの単語や日常会話の言葉を覚えるように努力した。その時、一番興味あったドラマは「あすなろ白書」という若者のドラマだった。ドラマの会話を一生懸命聞き、ドラマのキャラクターのセリフをまねし、ちゃんとした標準語を練習するこ

とができた。聞いてもわからない言葉を辞書を引いて調べることもしばしばあった。テレビをみることは、授業終了後の日本語「教室」だった。もちろんテレビを通して日本語を勉強したのは私一人ではなかった。日本語学校の寮で一緒に生活したスクールメイトも同じ勉強方法でやっていた。しかし不思議なことで、同じドラマを見ても、ドラマのストーリーあるいはドラマの筋の解説が違っていた！テレビで学べることは、日本語だけではなかった。日本の社会そのものも少し勉強できた。今でも楽しむクイズ番組といえば、やはりマジカル頭脳パワーという番組である。いつ見ても、勉強になる番組ではないかと思う。

コマーシャルからもたくさんのことばを学んだ。宝缶チューハイのすりおろしリンゴチューハイのコマーシャルの中の宮沢りえの有名なセリフはその一つである。最初、その「すったもんだがありました」という句の意味がさっぱりわからなくて、すったリンゴのことだけ指していると私はずっと思い込んでいた。ある日、偶然に友達とそのコマーシャルの話をしていて、説明してもらった。やっと意味がわかって、日本語がおもしろいなとしみじみ思っていた。

しかし、音楽にしても、ドラマあるいはテレビにしても、学べることは限られていた。大学生の私にとって、今もっとも有効な日本語の勉強法とはたくさんの日本人と接することと新聞や専門雑誌を読むことだろう。日本人と接すること、つまり一緒に生活することによって、日本語も、日本のすべてのことが学べると信じている。これは、言語の勉強のベストの方法である。



私の日本語の勉強法

世話クラブ：神戸西ロータリークラブ

李 美 愛

神戸大学博士課程

『私の日本語の勉強法』について原稿を頼まれた時、私は初めて日本に来たばかりの自分を思い出していた。今から6年前、“もっと勉強したい”という、他の留学生と同じ希望を胸に抱いて私は主人と一緒にこの日本に来た。その時の日本語の知識というものは、今考えれば恥ずかしい限りの無知であった。結婚と同時に日本行きが決まっていた私は、3ヶ月ぐらいテープ付きの教材を利用して家で勉強はしたものの、初めて日本に来た時は〈すみません〉と〈〜どこですか〉しか言えない状態であった。

日本に着いた時、幸い表示板には英語が書いてあったり、駅などのインフォメーションを通して見ぶり手ぶり英語半分で何とか目的地まではたどり着くことができた。しかし、家探しから始まった日本の生活は言葉が通じない私にとって、いままで味わったことのない苦勞であった。日本語学校に通い始めてから、もっとはやく習いたいという一心で学校の先生に特別にお願いし、一日2時間、一週間の補充授業を受けた。その御陰で2ヶ月後、試験にパスして中級クラスに上がることができた。しかし口から出る日本語は学校でやっとなしゃべるぐらいで、思った通りに進まなかった。また、学校の先生の質問は理解できたのに店の店員の言葉は全然聞き取れなく落ち込む日が多かった。日本語は日本での生活、また自分が大学院に入って研究する時の手段であると考えていた私は、はやくマスターしたいといつも焦っていたのである。

その時、日本語学校の先輩からアルバイトを勧められた。勉強の時間が取られることと日本語がまだうまくできないという心配があったが、生活が困っていたのでアルバイトをやり始めた。日本人のなかで働きながらはじめは緊張で開けられなかった口も、仕事のことと仕方なく下手な日本語でも少しずつ言えるようになった。変な日本語を使ったため、皆から笑われたこともしばしばあった。でも、

その後は必ず皆から正しい言い方と励ましの言葉をいただいたので、恥ずかしくはなかった。また、家に帰ると時間があればテレビを好んで見た。言葉が易しい漫画やニュース、映画をみながら、わからない単語が出るとすぐ辞書から探し、覚えるようにした。

アルバイトを通じた実生活のなかでの経験や、テレビからの聞きとり練習、辞書からの単語探しなどの努力をしたかいがあって、一年後には日本語一級試験に通ることができた。また、大学院に入学し、自分がやりたい研究を始めることができた。人はいくら難しい言葉の国でも長い間、そこに住んでいたらその国の言葉が自然に覚えられるようになるであろう。しかし留学生には時間が限られているため、できる限りはやくその国の言葉を習う必要がある。そのためにはやはり自分の努力なしには絶対無理だと思う。私は運良く、日本語が我が国の言葉と似てる点が多かったため、比較的習いやすかった。しかし留学して6年になる今でも、しゃべる機会づくりや単語探しを続けている。それは日本語をうまく言えるほど、単語を一つでも多く覚えるほど日本での留学生活が豊かになると思うからである。



('96年度, 秋の懇親会)



('96年度役員の皆さん)



('96年度総会)

1996年度米山奨学生学友会関西地区役員名簿

1996年11月18日現在

会 長	清河雅孝 京都産業大学法学部教授 〒607 京都市山科区御陵牛尾町72-7	[京都東R. C.] ☎:075-594-2029(H) FAX:075-594-5249(H)
幹事長	梁 官洙 大阪経済法科大学研究員・講師 〒544 大阪市生野区中川西1-19-1	[大阪住之江R. C.] ☎・FAX:06-741-5065(H)
副会長		
D-2650	文 楚雄 立命館大学経済学部講師 〒604 京都市中京区西ノ京島ノ内町21番地 ネオコーポラス島ノ内B-814	[京都西北R. C.] ☎:075-823-2663
D-2660	顧 海松 松下電工(株) 〒565 大阪府吹田市山田西4-4-14-505	[大阪東R. C.] ☎・FAX:06-878-6061
D-2680	王 充志 明光証券 〒559 大阪市住之江区新北島コーポ4-703	[西宮甲子園R. C.] ☎:06-682-8210(H)
幹事		
学術	吳 賢龍 甲子園大学経営情報学部助教授 〒532 大阪市淀川区三津屋北1-6-20	[堺東R. C.] ☎:06-301-3358 FAX:06-300-5271
庶務	林 文彬 大阪職業能力開発短期大学講師 〒596 岸和田市春木泉町3-7-302	[京都東R. C.] ☎:0724-36-1528(H)
会計	陳 世明 京都大工学研究科後期博士課程 〒606 京都市山科区御陵池堤町28-W13	[守口R. C.] ☎・FAX:075-581-4986
書記	林 勲 (株)トラスコ中山 〒578 東大阪市本庄西2-83社員寮9号室	☎・FAX:06-747-5382
親睦	吳 淑芬 (株)コベルコ科研 〒651 神戸市中央区山本通2-13-10	[神戸須磨R. C.] ☎:078-221-5160
国際交流	李 炳男 同志社大大学研究科後期博士課程 〒602 京都市中央区壬生相合町8番地6スカイノブレ大宮507	☎:075-812-2784(H)
顧問	林 錫璋 桃山学院大学経済学部教授 〒593 堺市鳳中町8-284-7	[名古屋西R. C.] ☎・FAX:0722-62-4633
会計監査	莊園福松 税理士 〒530 大阪市北区鶴野町4コーポ野村梅田A-216	[神戸R. C.] ☎:06-375-1070(H)
相談役	重光世洋 大阪産業大学工学部教授 〒630 奈良市七条西1-11-19	[大阪R. C.] ☎:0724-44-5004(H) 0720-75-3001Ex3711(O)

米山奨学生学友会(関西)
1995年度会計収支決算報告書

自1995年4月1日
至1996年3月31日

収入の部		
科目	金額	備考
前年度の繰越金	567,490	
総会の参加費	323,000	
通常会費	78,000	39名×2,000
特別会費	121,000	
寄付金	223,000	
米山奨学会補助金	590,000	
援助交付金	550,000	D-2640 100,000 D-2650 100,000 D-2660 250,000 D-2680 100,000
利息	521	
合計	2,453,011	
支出の部		
科目	金額	備考
総会費用	477,610	
役員会議費用	46,898	
交流会費	707,062	
通信費	122,905	
交通費	40,019	
事務用品費	86,362	
広報費用	513,736	会報12号
雑費	21,338	
次年度への繰越金	437,081	
合計	2,453,011	

現金 ￥ 56,003
住友/梅田普通預金 ￥296,461
NO. 1378636
郵便局 ￥ 84,617
00990-9-43449

私は、1995年(1995年4月1日から1996年3月31日まで)における会計の監査を行い、次の通り報告します。

収支計算書、財産目録は会計帳簿及び関係証憑書類の記載金額と一致し、収支状況及び財政状態を正しく示していると認めます。

会計監査 荘園 福松 捺印

米山奨学生学友会(関西)1996年度活動報告

- ① 1996年5月11日(土)錦城閣にて 第一回役員会議
議題：学友会総会及び新規奨学生歓迎会について
- ② 1996年度総会及び新規奨学生歓迎会
日 時：1996年6月2日(日) 12:00～15:00
場 所：錦城閣(大阪市)
参加人数：ロータリアン 30名,
OB会員 29名,
奨学生 41名
内容：95年度の各報告, 新旧役員を紹介, 新年度の活動方針, 新年度, 予算案の承認, 功労者の表彰, 新規奨学生歓迎会, 懇親会
- ③ 1996年9月8日(日)錦城閣にて 第二回役員会議
議題：学友会秋の懇親会について, 学友会会報原稿の募集について, ロータリークラブ例会での卓話の学友会の人選について
- ④ 学友会秋の懇親会
日 時：1996年11月3日(日)
内 容：京都で「戦国“夢”紀行」のめぐり
参加人数：ロータリアン 2名,
OB会員 20名,
OB会員家族 22名。
- ⑤ 1996年12月21日(土)大阪駅ビルにて 第三回役員会議
議題：学友会会報の編集について

会 員 の 消 息

- 清河雅孝氏は1995年11月『中国会社法施行後の合弁企業 — その理論と実務 —』を商事法務研究会で出版。
- 林錫璋氏は、1997年1月『債権と担保』を法律文化社で出版。
- 文楚雄氏は、1997年2月『楽しい中国語会話』(共著)晃洋書店で出版。
- 孫宝徽氏 1996年3月6日長男誕生。
- 桂小蘭氏 1996年3月7日長女誕生。
- 前学友会会長許紫芬(山岡由佳)氏は、台湾暨南国際大学に赴任。
連絡先：〒545 中華民国台湾省南投県埔里鎮大学路1号
国立暨南国際大学 歴史学研究所
TEL:049-910872(0)
FAX:049-912551(0)
自宅TEL:049-914072(FAX同)

皆さん、おめでとうございます。

’97年度学友会会報14号の原稿募集

- テーマ：①学友会に対する提言或しくは②日本での楽しい旅行
字 数：制限なし。写真添付。
締 切：1997年11月31日
送付先：〒544 京都市山科区御陵牛尾町72-7 清河雅孝
TEL:075-594-2029 FAX:075-594-5249

投稿をお待ち申し上げます。

相 談 コ ー ナ ー

学友会は留学生のために相談コーナーを設けました。さしあたり、次のような分野と担当者を決めました。ご利用ください。

商 法 関 係	清河雅孝	〒607 京都市山科区御陵牛尾町72-7	TEL:075-594-2029
民 法 関 係	林錫璋	〒593 堺市鳳中町8-284-7	TEL:0722-62-4633
税 理 関 係	荘園福松	〒530 大阪市北区鶴野町4コーポ野村梅田A-216	TEL:06-375-1070
マーケティング関係	呉賢龍	〒532 大阪市淀川区三津屋北一丁目6-20	TEL:06-308-4070

訂 正 と お 詫 び

去年学友会12号P38後から五行目

⑧：会 長：徐重二(統一超商(服)社長) → ⑨：米山学友会(台湾)会長：徐重仁(統一超商(股)社長)
上記、訂正の上、お詫いたします。

1996年度米山奨学生学友会関西地区会員名簿

奨学生の番号順で次の通り

1996年11月4日現在

重光 世洋	00066	權 貴 玉	02475	黄 鎮 杰	04095	金 德 述	05000
中山 勝富	00168	唐沢 宗良	02498	金 高 男	04098	李 文 英	05005
上條 勝常	00170	朴 政 九	02500	金 容 珣	04100	林 信 男	05007
香島 明雄	00235	竜 嘉 哲	02520	王 昭 文	04103	戴 金 燕	05010
黄 振 祥	00368	張 哲 珉	02550	尹 淑 鉉	04105	柳 成 林	05013
郭 顯 榮	00372	陳 麗 華	02739	徐 貴 淑	04186	曹 美 庚	05014
郭 許 瑶 琴	00465	林 琇 春	02747	馬 燕	04214	金 相 圭	05016
徳山 卓也	00497	朴 美 子	02750	文 楚 雄	04215	李 惠 儀	05017
清河 雅孝	00577	梁 官 洙	02788	龐 孟 焯	04417	潘 金 龍	05019
林 茂 宏	00584	姜 兑 欣	02791	張 瓊 文	04487	張 昌 聖	05022
豊田 秋雄	00590	朴 鍾 祐	02793	金 明 珠	04494	安 成 模	05096
林 宏 作	00596	王 充 志	02796	金 淑 姬	04495	崔 銀 珠	05097
東 正 伯	00651	吳 淑 芬	02798	林 明 志	04497	李 振 宝	05098
西原 正雄	00721	陳 士 昌	02808	林 獻 山	04498	孫 國 強	05099
宮崎 ちな(幸珍)	00734	藤森 信一	02987	劉 慧 真	04500	崔 弘 石	05100
魏 栢 良	00972	金 秀 芝	02992	朴 勝 子	04502	劉 民 涼	05168
莊園 福松	00975	蕭 麗 幸	03022	朴 信 貞	04503	周 瑋 生	05172
黄 光 前	01109	梁 貞 模	03029	葉 淑 節	04508	鄭 霞 清	05173
大田 一博	01122	文 兑 景	03051	陳 昌 淑	04526	林 勲 澍	05177
南 俊 彦	01135	蔡 錦 玲	03054	徐 漢 兢	04531	郑 甘 澗	05179
武田 維明	01140	蔡 秀 娟	03059	金 芝 均	04532	張 曉 輝	05183
張 壁 東	01266	王 桂 香	03365	楊 建 興	04540	潘 靜 燕	05186
鍾 雲 海	01279	柳 政 和	03367	龔 千 芳	04543	蘇 禮 俊	05187
林 克	01385	曾 麗 蓉	03369	黄 愛 玲	04544	陳 禮 意	05467
廖 登 稔	01440	王 石 明	03399	李 楚 倫	04547	謝 意 如	05469
羅 成 純	01467	全 玟 樂	03401	柳 美 成	04550	許 雅 婷	05470
李 惠 玲	01538	洪 德 俊	03403	徐 源 亨	04554	黄 俊 卿	05471
文 燕 友	01549	李 暎 一	03468	林 文 彬	04629	黄 麗 蓉	05472
石田 光雄	01588	肖 敏 悟	03503	金 玉 善	04634	金 宰 賢	05474
車 季 南	01700	李 東	03510	劉 兵	04636	金 肅	05475
黄 晨 昌	01704	辜 秀 秀	03724	王 華	04663	李 濟 勇	05477
劉 明 治	01709	林 妙 音	03727	羊 亜 平	04685	林 治 煥	05478
吳 俊 雄	01739	林 云 鉉	03728	廖 朝 暉	04699	張 起 權	05496
竹田 淑惠	01752	朴 三 用	03750	孫 誠	04701	左 容 昊	05498
山岡 由佳	01880	譚 珊 珊	03751	王 毅	04702	吳 玟 定	05504
松井 仁淑	01884	金 寶 英	03752	顧 海 松	04706	朴 三 奎	05505
藤原 エミリオ	01891	黄 曉 芬	03840	桂 小 蘭	04707	柳 正 鐸	05510
鄧 尚 昇	01893	楊 克 儉	03841	于 水	04712	陳 宏 立	05512
早川 由美	02077	劉 雨 珍	03847	劉 莉	04713	河 準 洪	05513
張 謙 益	02089	江 國 平	04055	劉 紹 明	04714	黄 一 棟	05515
福山 嘉一	02236	崔 冷	04056	崔 賢 淑	04969	姜 明 子	05517
河 允 姬	02253	李 炳 男	04066	徐 慧 如	04972	金 政 旭	05519
辛 嘉 靖	02260	吳 賜 金	04070	曹 一 德	04981	張 文 軍	05533
高樹 亮一	02467	王 旭 志	04074	黄 式 鐵	04999	梁 國 華	05572

陳 世 明 05608	林 紅 05676	王 永 金 05696	史 惠 新 05705
許 点 淑 05610	李 晶 煜 05690	嚴 偉 琪 05697	優 努 斯 多 力 坤 05706
金 珠 泰 05611	劉 春 江 05691	徐 平 05703	王 柏 森 05708
宋 秀 環 05613	馬 石 平 05692	李 黎 明 05704	

リー・ファット	00729	シュレスタ, ディネス・プラサド	03754
ファン・ドック・ロイ	00985	タバオ, ヘンリー・アグレス	04110
トラン・コン・ティエン	01139	ウォーターズ, カレン・ジュリア	04507
パハードル, サルダール・カール	01258	マイディン, シャフル・ハミード・ビン	04805
フィーノ, ジュゼッペ	01274	ビック, シティワンノー	04967
ベリーニ, リノ	01308	ムワグワビ, フローレンス・ムワカ	05481
モータメド・エクテサビ, ミトラ	01906	シアン, ジョン・パトリック	05482
リー・ケン・チョアン	03170	ハッサン, サルミナ	05514
ザヤニ, モハメッド・ヘディ	03400	イルワン	05516
ブラダン, ジャヤ・ラム	03405	トン・オン	05695
リム・チン・チョウ	03749	ティン・エイ・エイ・コ	05707

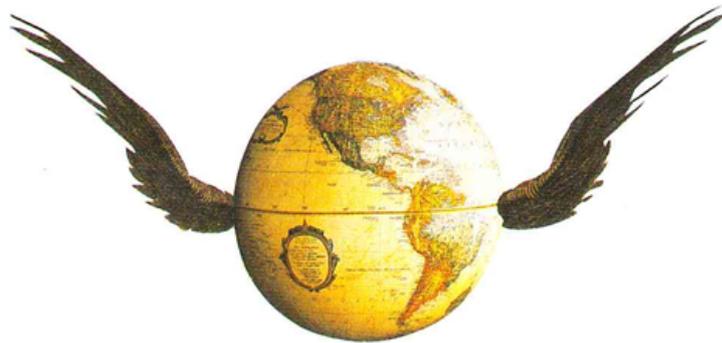
編 集 後 記

会報第13号は、「ロータリー米山奨学生学友会（関西）」に所属している2650、2660、2680地区の会員と現奨学生、およびお世話に頂いているロータリアンから、寄せられた原稿を掲載したものである。今号は、新会長清河雅孝の下で、改革第1号として改めて発足することになった。メインテーマ「私の日本語の勉強法」について、各会員がそれぞれの生々しい体験や、どうすれば上達できるのか、また如何に苦勞してきたかを、寄稿してもらった。日本での勉強や、研究や仕事に、その成果を上げるために、欠かせることのできないのは、日本語である。これらの勉強法は、お互いのご理解と共に、よい参考になれば幸いである。

なお今号より、2640地区が分離されたことによって、費用の節減と内容の充実という両立しにくい課題を与えられ、編集委員会で検討を重ねた結果、会報のページ数はやや縮小されたが、内容が革新的なものになってきた。最後に、今回も昭文堂印刷(株)社長浅井晴雄様と同社業務部河井透様のご支援、ご協力に、厚く御礼申し上げます。

編集委員

清河雅孝
大塚賢龍
王 充志
文 楚雄
陳 麗華



ROTARY
YONEYAMA
SCHOLARSHIP
ALUMNI
ASSOCIATION